

仕事人秘録

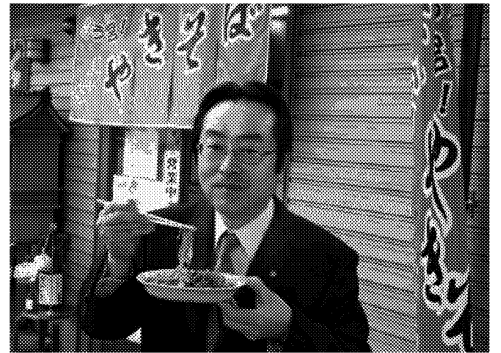
町おこしや地域活性化で切磋琢磨(せつさたくま)した人がある。

富士市産業支援センター(f-Biz、エフビズ)のある富士市と隣接する富士宮市で活躍していた渡辺英彦さんです。渡辺さんは食の地域ブランドを立ち上げ、地域活性化や町おこしを実践された第一人者です。生まれが1959年と同じこともあり、頻繁に情報交換をしていました。

2008年6月、エフビズ立ち上げを発表する日の朝一番で渡辺さんに電話で報告すると「同じ富士山の麓でしょ。一緒にやってみましょう」と温かい言葉をかけてくださいました。渡辺さんは「富士宮やきそば学会」の会長で、「富

行列のできる経営相談所 ⑭

富士市産業支援センター長
小出 宗昭氏



「富士宮やきそば」を全国に広めた渡辺英彦さん

「富士宮やきそば」立役者

もブランド論、マーケティング戦略などを語っていただいたほか、富士市の食品メーカーなどの相談にもしてもらいました。富士地域に新しいチャレンジの輪を広げるきっかけをつくってくれたと思っています。青森でのご当地グルメのイベントでは2人でトークショーを行い、その延長線で地場食品の「バラ焼き」について渡辺さんがあるア

むのは見事の一言です。そんな渡辺さんが昨年12月に急逝されたのが非常に残念でなりません。富士地域にはまだまだアイデアマンがいる。フルーツアーティストの杉山清さんだ。杉山さんのカラフルな宝石箱のような生フルーツゼリーを求めて、お店はいつも行列です。1990年代後半に近くのスーパが撤退して商店街のにぎわいが消えかけた時に果物店からフルーツ

士宮やきそば」をご当地グルメの全国ブランドに押し上げました。まだエフビズの話がなかった07年に静岡県島田市で開かれた茶農家の活性化イベントで初めて一緒に登壇しました。この時、富士宮やきそば誕生の経緯などを聞いて気づいたことがあります。外見は模倣できても戦略と戦術を組み込まないと地域

活性化につながらないという事です。産業支援にも通じるものがあります。イベント帰りの電車の中で、地域貢献のあり方について話し合ったことが懐かしく思い出されます。切り口は違っても、町おこしについて同じ理念を持つ同志だと確信しましたね。渡辺さんにはエフビズのセミナーの講師として何度

ドライブをしました。「おそろいの服を着るだけではインパクトが弱いですよ。皆さんがバラ族であることを訴えないと」その後、青森ではバラ焼きのタレ「ベルサイユの薔華」を開発。「バラおこしに積極的に参加されています。富士地域は地域再生の素地が自然と醸成されつつあります。言葉に込められているような気がしてな

私には子供の頃に何度もお使いに行った果物店が驚く生まれ変わったことに驚きました。杉山さんも地域おこしに積極的に参加されています。富士地域は地域再生の素地が自然と醸成されつつあります。言葉に込められているような気がしてな